

## 2019 年度事業計画

### 【2019 年度の基本方針】

2019 年度は、公募事業である「日本ジュエリー展」の募集及び審査年にあたる。募集方法、審査員等を決定し、年度後半には募集、審査を行なう。

育成事業の JJDA 講座は、従来の講師による講演型のセミナーに加え、若年層へジュエリーデザインの普及啓発を図る体験型の講座を各地で開催する。

展示・発信事業では、会員による展覧会を開催するとともに、本年度も情報発信として SNS 等を使った迅速な発信方法を改善し、また、来場者へのアンケートなどを通して事業内容を充実させ、継続して全国で実施する各事業への参加者の増加、普及を図る。

### 【I ジュエリーデザインの公募に関する募集、審査、授賞対象の発表、表彰に係る事業 (公益目的事業 1)】

1964 年創立当初から概ね隔年で 30 回に亘り開催してきた公募展を発展させ、ジュエリーデザインのより高度な振興を図る。ジュエリーを素材価値だけでなく造形分野として、広く実作品を公募し、審査・表彰することにより日本のジュエリーデザインのレベルアップを図り、国際的な地位確立と次世代の人材育成を目的としている。

2019 年度は、募集と審査を行なう「準備年度」である。翌年度は、応募の実作品の中から各賞の作品を選び表彰し、さらに入選作品展覧会を通して本事業及びジュエリーデザインの普及啓発を図る。

#### (1) 応募要項発表・審査・表彰

「第 31 回公募 2020 日本ジュエリー展」は、海外部門を新設し海外からの応募を募る。2019 年 6 月に告知、秋に応募要項の発表を行い、ホームページ掲載をはじめ全国諸機関への告知、プレスリリース、応募説明会の実施等により、国内外へ広く公募を行う。

応募締切りを 2020 年 2 月中旬頃とし、3 月中に審査を実施して、終了後速やかに応募者に審査結果を通知する。受賞作品については、記者発表ほかホームページで発表する。

- ・主旨：「ジュエリーの持つ役割は時代とともに進化していきます。新しいデザインや素材の魅力、それを引き出す確かな技術は、一般的な装身具の枠を超え一つの文化として人の心を飾ります。心を動かすジュエリーの可能性を秘めた作品を公募します。」

#### ・応募内容及び表彰

「第31回公募2020日本ジュエリー展 JAPAN JEWELLERY COMPETITION」

応募部門：・一般部門 ・under26部門(26歳以下の応募者対象) ・海外部門 ・JJDA会員部門

応募作品：実作品

表彰：大賞／優秀賞／under26部門賞／海外部門賞／審査員特別賞／奨励賞／他

#### (2) 展示発表の諸準備

- ・2020年度に実施する受賞作品及び入選作品の展示方法を検討し準備を行なう。

#### (3) 主催、後援等

- ・主催 公益社団法人日本ジュエリーデザイナー協会
- ・後援(申請予定) 経済産業省、文化庁、公益財団法人、公益社団法人、一般社団法人等
- ・協賛 本事業に協賛協力する各企業、学校法人等

## **【Ⅱ ジュエリーデザインに係る調査研究及び人材育成に関する事業（公益目的事業2）】**

ジュエリーは生活に潤いを与え活性化させ、さらに心の拠り所として改めて人々の関心を集めており、生活に果たす役割などを研究する価値は大きい。

一般初心者へは、デザインとものづくりの体験講座を開催しジュエリーへの関心を高める。中級者へは、ジュエリーの歴史、文化に関する専門家による講演会を開催し、知識を深めることにより、最終的にプロへの道を拓くべく人材育成のステップアップを図るとともに、ジュエリーデザイナーとしてのスキルアップを図る。

また、各展覧会会場に於いてアンケート調査を実施し、これからの日本のジュエリーのあり方を探っていく。国際的課題である知的財産権に関しては、ジュエリーデザインの分野での産業財産権及び著作権等に係る諸問題を調査研究し、デザイン価値の重要性を社会に発信していく。

### (1) セミナー・講演会

ジュエリーの文化、発達史をグローバルに研究する専門家を招いて講演会及び初心者向け体験講座並びに技法の実技講座を行なう。

#### ①JJDA 講座 2019 開催（詳細検討中）

会期 2019年冬頃 会場 検討中 講師 検討中 募集人数 約60名

#### ②JJDA 講座 2019 全国各地域における実技・体験講座

・中部地区 テクニカルワークショップ「螺鈿」

会期 2019年10月頃（全2回） 会場 東別院会館（名古屋市） 講師 早川守彦氏（JJDA 賛助会員）  
募集人数 約10名

・近畿地区 「金粘土講習会」金粘土を使用した作品の制作体験

会期 2019年6月末～7月予定 会場 南船場会館（大阪市）予定 講師 三木稔氏（JJDA 正会員）  
募集人数 20名

・西日本地区 「卒園コサージュ手作り体験講習会」

会期 2020年1月11日 会場 かやのみこども園（福山市） 講師 JJDA 正会員  
募集人数 40名（園児、父兄）

### (2) 知的財産権の研究と推進

意匠権、著作権などジュエリーデザインにおける知的財産権に関し、その重要性を啓発する。

①事務局保存の創作保全に関する資料の見直しと改訂版の作成

②ホームページ上において公開し普及推進する。（継続）

③メルマガ等にて継続的に記載し啓発する。

日本デザイン団体協議会（D-8）／デザイン保護研究会への共同参加事業として、「D-8 デザイン創作証」運用他、知的財産権の社会への普及を図る。

### (3) 講師派遣の実施

自治体、企業、団体、教育機関等及び海外からの要請に対応し、会員を講師として派遣してジュエリーデザインに関する講義や実技指導を行う。

## **【Ⅲ 国内外の優秀なジュエリーデザインを展示及びジュエリーデザイン情報の発信をすることにより、人々の生活文化の向上に寄与する事業（公益目的事業3）】**

国内各都市の展示会場で最新のジュエリーデザインの実作品を展示することにより、人々の生活文化の向上を図ることを目的とする。

日本のジュエリーデザインの世界への発信を、さらに拡大し充実させるため、海外情報の収集と JJDA からの情報発信を推進し、交流を図り、国際相互理解の促進に努める。

機関誌の発行及びホームページによりジュエリーデザインに関する情報を、広く一般に提供し訴求活動を行う。

(1) ジュエリーデザインの展示等による普及・啓発

①展覧会 2019 年のジュエリーアート「しあわせのかたち」

JJDA に所属する正会員、名誉会員による展覧会を実施する。

会期 2019 年 9 月 17 日～22 日 会場 代官山ヒルサイドテラス エキシビジョンルーム

出品者 100 名

②東日本地区会員による展覧会「東の風展」を開催

会期 2020 年 1 月頃 会場 未定 出品者 10 名（東日本地区 JJDA 会員）

③中部地区（仮称）「コンテンポラリージュエリーを創るワークショップ」展示会

2018 年度企画の「コンテンポラリージュエリーを創るワークショップ」の研究内容をアートギャラリーで展示し、ギャラリートークを行なう。作品及びプロセスの展示もする。

会期 2019 年 8 月頃 会場 名古屋市内のアートギャラリー 参加者 約 11 名

(2) ジュエリーデザインに関する海外交流及び発信

海外交流事業の拡大を見据え、アジア、欧米の諸機関とのネットワーク形成を推進し連携を図る。

ホームページ等を中心とした協会及び日本のジュエリーデザインに関する情報資料を充実させ、相互リンクの拡大を図るなど、情報の発信の体制を構築する。

①「イタリアのエトルリア粒金と古代金属工芸技術」についてのセミナー

エトルリアの粒金専門家で、古代金属工芸技術研究家でもあり、ローマ大学との共同研究を行なっている、アメリカ人でローマ在住の David Richard 氏によるセミナーを開催する。

会期 2019 年 6 月下旬頃 会場 東京国際フォーラム（予定） 講師 David Richard Loepp

参加者 100 名

(3) 情報発信

機関誌及びホームページによりジュエリーデザインに関する情報を、広く一般へ提供する。

機関誌では、事業の詳細な報告を、ホームページではタイムリーに公募事業のインフォメーション、各 JJDA 講座、展覧会等の開催に関する情報を提供、発信する。

①機関誌「JJDA2020 No.54」A4 版 約 32 頁 2020 年 1 月発行

②JJDA ホームページの運営を充実化（継続）<http://www.jjda.or.jp>

③ジャパンジュエリーフェア 2019 における協会広報ブースに出展し、協会事業を公知する

④プレスリリースによるメディアへの働きかけ強化

⑤ジュエリーデザインに関するデータベース構築

## **【IV その他事業】**

(1) 会員相互の交流事業

会員相互の交流を活発化し、長年在籍する会員から若年層への創作技法の伝承、見学会などを通して情報交換を行う。

①関東地区 「エマーユ七宝美術館」見学会（東京）

②近畿地区 「備前長船刀剣博物館」見学会（岡山）

③西日本地区 「陶器窯・糸島」見学会（福岡）

④活動促進 「珊瑚セミナー（仮称）」（東京）

⑤業界関係の工場の見学と体験（東京）

⑥会員相互の交流の場をつくる。

(2) 会報「FROM JJDA」及び「メルマガ from JJDA」発行 年12回 事務局編集・発行  
各委員会（部会）、事務局よりの事業準備及び報告情報を会員へ速やかに伝える。

(3) 内外ジュエリーデザインに関する関連団体との連絡及び協調

①日本デザイン団体協議会（D-8）への参加

D-8 運営会議、デザイン保護研究会、及びジャパン デザイン ミュージアム設立研究委員会等への参加

②国内外の諸団体の事業への後援・協賛・協力

## 【V 管理等】

(1) 会議開催

①総会開催 2019年5月

②理事会開催 2019年4月、7月、10月、2020年1月

③部会長会議・事業部会合同会議・委員会及び部会会議

・全国5地区部会及び事業等の各部会部会長による会議開催。年1回

・各委員会及び各担当による会議開催。計 年約60回

(2) 諸規定の整備

(3) 会員情報管理（継続）

(4) 会員章碑の作成（継続）

(5) 協賛店の整備と拡大

(6) 正会員・賛助会員入会促進の検討

(7) 一般への情報提供サービスの検討

(8) 予算書・決算書作成

(9) 素材表記の検討・精査

(10) 会費納入の徹底

以上